THE KOHO NANKOKU
広報ナンコク
昭和37年8月15日　第34号　(1)
編集発行　南国市広報委員会　高知県南国市東崎1335　電451　安岡印刷所　電330

人生訓

成功は結果で……
……あつて
目的であつて……
……はならない
（フローベル）

南国市の概要

昭和34年10月1日発足
面積　126.13平方粁
人口　男20,845人 女21,230人 42,075人
世帯数　10,752戸

農業構造改善の基本構想きまる

市が農業構造改善事業の一般地域として指定を受けたのは、本年の二月二十八日のことである。

その後、産業経済課に農業構造改善係を新設、農業構造改善事業地域協議会を結成するなど、基本構想をねつていたが、このほどその大綱ができあがつた。

基本構想による主な改善点は、基幹作目による主産地の形成、土地基盤整備、作業の機械化、共同作業と協業化などによる経営労働生産性の向上、井堰の統合による用排水路の完備、農協の合併により流通機構の確立などがあげられている。またこの構想によれば市の立地条件による実体から市内を三地帯に区別し、それぞれの地域に則した将来の方向を形ちづくり経営の合理化と、生産性を高めようというものである。

南部海岸地帯‖湿田の乾田化を計るとともに、交換分合により耕地を集団化させる、農道、耕地の整理事業を推進し、土地の利用度を高度化する。また基幹作物として高級加温ソ菜を中心とし、果樹園芸を振興させ経営の安定を期す。営農類型を、加温園芸と水稲、果樹と水稲の経営形態にする。

中部平坦地帯‖主要作目は稲作であるが、これに加味した各種のソ菜園芸と家畜の増殖を計り、地域毎に主幹作目を選定し、作目毎の集団栽培をすすめ、主産地の形成に努力する。

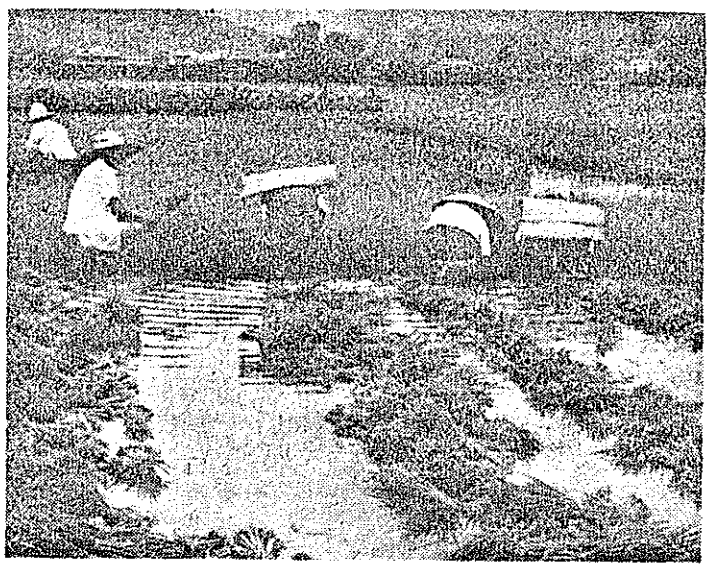
また、耕地の集団化と、耕地整理による労働生産力の向上も必要である。

水稲二期作、水稲とソ菜加温ソ菜と水稲、畜産と水稲の営農形態にする。

北部地帯‖水稲を中心とした経営は成立しないので山地の果樹適地を開墾し樹園化させ、果樹を基幹作目とし、経営の合理化を計る。

また指導体制と、出荷体勢を一本化し、生産、出荷機構に一貫性をもたせ有利出荷を計ることも必要である。

営農類型を水稲と畜産、果樹と水稲、果樹園芸とし経営の自立化を計る。



……二番苗取る……

高木氏当選
低調な海区漁業調整委員選挙

八日行れた海区漁業調整委員の選挙は、告示後十一人の立候補があつたが、投票日の前日一人辞退したため結局十人により七つの席を争つた。

その結果、地元から立候補した高木寿恵喜氏（65）‖香西漁協長は千九百二十三票を集めて見事当選した。

なお、市の投票は久枝、前浜、浜改田、十市の四投票所で行れたが、有権者総数千四百六十三人に対し、投票者は、九百六十六人で、高木氏の地元である前浜（91％）を除いては、いづれも低調で、平均66・03％の投票率であつた。

市における各候補者の得票数は、次のとおり。

高木寿恵喜‖六百九十票
西岡　勇亀‖百九十一票
坂上　貞利‖五十八票
小川　芳男‖二票
上原　勇‖一票

15％減の心配も

市内の一期作を検見

市農業委員会、市産経課などの一行四十人による早稲の検見はさる一日行なわれた。

この結果、作柄は非常によいが、粒の皮が厚いため、反当見込み収量七俵は十五％の減になりはしないかと見られている。

大工賃を……
千二百円に

市内にある香長建築組合（市の発足後、西村初代市長の補佐役として、県職員から助役に就任していた小笠原豊暢氏は、七月三十一日付で辞表を受理された。

同氏は、三十四年十二月に就任、発足後間もない困難な市政を軌道にのせとくに一億数千円といわれた市の赤字財政の建直しに尽力し、市の将来の安定性をはかり、その見通しのたつた昨今、辞意をもらしていたが、こんど正式に認められたもの。

なお、同氏は県へ復職することになつている。

小笠原助役辞任
―七月三十一日付で

組合長岡田茂、百五十人）は、本年度の総会を開らき役員改選、賃金などについて協議の結果、一日千円の大工賃を千二百円に、また日役の場合、電気工具を使用したときは、工具提供者のみ一日千三百円とすることに決めた。

土地改良事業など
十年間に十七億円

市の農業構造上の問題点は地理的、気象的悪条件による交通輸送の不利、風水、病害虫の多発、一部農地の地盤沈下、農地の分散、区画の狭少不整、用排水路の老朽化、経営規模の零細、最近の農業労働力の不足、農業労働生産性などすこぶる問題が多い。

農業構造改善事業はこれらの諸問題を排除してゆくもので、それだけ困難性も多い、こんどの基本方針によれば十年間に約十七億円の事業を行うもので、その成果が期待される。

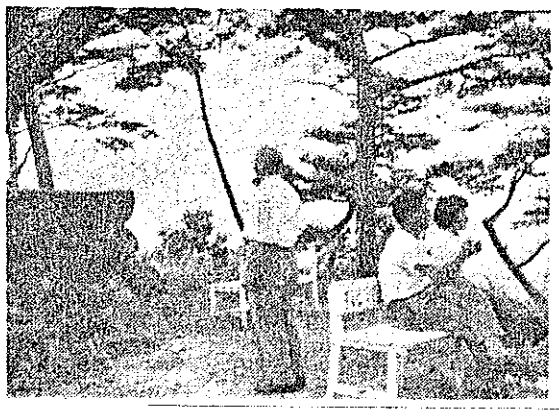
事業の大綱は、次のようなもので、いづれも生産の拡大、経営の合理化を計るためのもので、パイロット式に実施し、順次推進普及をはかろうというもの、

▽土地整備事業

中南部地区の野田、甘枝物部、東沢、切戸の五カ所、水田の土地改良事業により、農地の集団化、農道、用排水路の高土事業を含む区画整理事業を実施、対象面積、二百三十三、四ヘクタール工事費六億四千七百五十万円、また、北部山間地区に十一工区合計三百六十一ヘクタールに、二億二千八百三十二万円の給水防除施設をともなう園芸地造成事業を行う

▽経営近代化事業

経営近代の諸施設を農協に設備する。とくに米作と、ソ菜栽培に対してはフォードソン、トラクター一式三台、六百三十三万円。共同防除機スワー



雑布をおくつた
老人グループ

老人だからと、人の好意を受け放し、ではいけない、なにか社会を明るくするためのことをしようと話し合つた結果、子供たちの学園を美しく腐き心美しく育つてもらうために、このほど小学校へ二百余りの雑布をおくつた老人クラブがある。

話題の老人クラブは、大篠長寿会（会長、永森重珍氏）で、七十才以上のおとしより二百名のあつまりである、この長寿会の好意を受けた大篠小学校では、感謝状をおくるとともに、子供たちの喜びの作文をグループの人達におくりおとしよりの好意を謝しよりよく勉強することを誓つた。

なお、同クラブでは、毎年一、二回雑布をおくることに決めている。

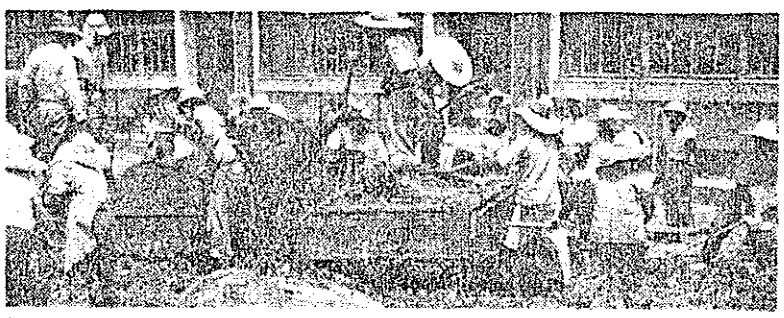
父兄ら奉仕で庭園
統合の香長中学校

大篠、稲生、三和、十市の中学校を一丸としてできた香長中学校は、校舎建設を終わり、残るは体育舘などの付属施設となつた。

このため校地の美化を計画し、校下で五十万円を造成。

これで庭園をつくるほか校地の周囲に樹木を植えることとなり、このほど父兄と教員ら百二十人が出動して、まず造園に汗を流した。

なお資金は緑の羽根カマ、セツケンなどの売り上げ手数料でかせいでいる。‖写真は庭園づくりにはげむ香長中の父兄たち。



琴平山を観光地に
池川市長現地調査

市内切つての遊園地的条件を持つ里改田の琴平山（一名、十市の金比羅）を観光地に整備する計画は、旧村当時たてられ資金難から実現しなかつた。

このため池川市長は、同計画を実現させる下調べとして、このほど現地を詳細に調査し神主の宮地さんらと話し合つた。

琴平山は海岸へ約七百メートルの小山で老朽や常緑の巨木が多く、桂浜、種崎をはじめ、遠くは足摺、室戸岬まで一望できる景勝地で大物主をまつる神殿は壮麗である。‖写真は琴平山東端で視察中の池川市長

簿記講習会

市商工会はさる六日から十八日まで、毎夜後免野田小学校で簿記講習会を開き成果を上げた。

内容は簡易と復式、講師は藤田宏（日興商事経理課長）風神清（通産局登録中小企業診断員）の両氏であつた。

市だけを担当

大篠の旧香長村役場に開設されている「南国農業指導所」は、七月十七日から南国市だけを担当することになつた。

従来の管内は南国大津、介良の一市二カ村であつたが七月十七日に両村は中央指導所へ移管となつたもの。

会長に井上氏
市農改協議会

市では、農業構造改善事業地域協議会の委員をこのほど次のとおり改選した。

会長‖井上満吉（市議会議長）、副会長‖金堂久喜（農業委員長）、同‖横矢健一（岡豊農協長）、委員‖北岡博、沢村武一、島内福喜、高木正延（以上市議）神田晴重、田島正実、松岡幸寿（以上農委）、岩原寅男（上倉農協専務）、田村英実（瓶岩農協監事）、鍋島藤吉（久礼田農協長）、島井武義（国府農協長）、沢村元治（長岡農協常務）朝田盛（野田農協理事）、池本豊亀（大篠農協専務）

浜田多国（稲生農協長）、北村謙一（十市農協長）、田内盛喜（三和農協専務）浜田幸一郎（前浜農協長）吉川一亀（日章農協専務）坂東政治（岩農協理事）、溝淵亀吾（農研連会長）、久米徳幸（改良協議会副会長）、土居秀寿（果樹同志会連長）、中田清茂（園芸連長）、北村松夫（森林組長）、小松貞紀（農業指導所長）、中沢浪治、宮崎清作、小松千代、中沢左内、（以上農業）伊藤高信（農高長）